

令和7年度 はあと平針事業報告

1. 事業概要

障害者総合支援法のもと、利用者個々のニーズや障害特性に応じた個別支援プログラムを作成し、各種余暇活動や生産活動の取り組みを通じ日々の生活リズムの安定を図り、心身の健康を維持し、生きがいを見つけていけるような支援を目指した。権利擁護の視点で日常の支援を職員間で振り返るとともに、感染症対策及び自然災害対策としては、業務継続計画の見直しや研修を行い、利用者が安全に、安心して活動できるよう、事業所運営を行った。また、業務改善の一環として、事故発生時により適切な対応ができるよう、マニュアルを改正した。

2. 事業所運営

1) 施設整備・設備

- ・ 2階内門扉設置
- ・ 木の伐採・剪定

2) 職員構成

(令和8年3月31日 現在)

管理者 (みーる平針管理者兼務)	サービス 管理責任者	生活支援員	事務員 (基幹センター事務員兼務)	嘱託医	看護師	計
(1)	1	8 (4)	(1)	(1)	(1)	9 (8)

※ ()内は非常勤職員で外数。生活支援員1名は育児休業中。

3) 会議

会 議 名	内 容	運営方法	構 成
法人運営会議	・各事業所の情報の共有化と法人運営課題についての協議を目的とした会議を行った。	毎月1回	理事長・常務理事 ・各事業所の管理者
職員会議	・次月の業務及び支援・運営全般について協議した。	毎月1回	全職員
ケース会議	・利用者の支援上の諸問題（緊急対応）に対する検討を行なった。	毎日の打ち合わせ時に必要に応じ行った。	全職員
	・半期のモニタリングを行った。 ・半期のモニタリングを行った。	8月 2月	

虐待防止及び身体拘束等適正化委員会	・委員会規程や指針に基づき、必要な対策について情報共有した。職員セルフチェックの内容を確認した。 ・「小さな出来事から虐待防止を考える」をテーマとする研修を企画した。	6月	管理者 サビ管 支援員1名
ハラスメント防止委員会	・ハラスメントの概要やセルフチェックについて確認した。	6月	管理者 サビ管 支援員1名
感染症対策会議	・業務継続計画の見直しを行うとともに、感染症に関する基礎知識を情報共有した。	5月・8月・11月	全職員
支援会議	・支援全般に関することについて協議した。	6月・9月・1月	支援員

4) 職員研修

職務遂行に必要な知識・技術を習得するために、福祉関係団体等の主催する研修に積極的に参加した。研修参加実績は下記のとおりである。

	参加者	研修名	主催	場所
6	支援員 支援員	新規採用者研修 強度行動障害者支援者養成研修(基礎)	名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会 名古屋市	東区 北区
8	支援員 支援員 所長 支援員	普通救命講習 対人援助技術研修 苦情相談事業研修 発達障害研修	名古屋市消防局 名古屋市社会福祉協議会 名古屋市社会福祉協議会 名古屋市社会福祉協議会	昭和区 北区 北区 東区
9	サビ管	人材育成研修	名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	西区
10	支援員 支援員	強度行動障害者支援者養成研修(基礎) 普通救命講習	名古屋市 名古屋市消防局	東区 昭和区
11	支援員 支援員 事務員	アンガーマネジメント研修 人権・倫理研修 労務管理研修	名古屋市社会福祉協議会 名古屋市社会福祉協議会 名古屋市社会福祉協議会	中区 Zoom Zoom
1	支援員 サビ管	メンタルヘルス研修 グループホーム相談会	名古屋市社会福祉協議会 愛知県	東区 岡崎市
2	支援員 支援員	身体拘束につながらない支援を学ぶ研修 ハラスメント防止研修	名古屋市社会福祉協議会 名古屋市社会福祉協議会	Zoom 北区

5) 年間行事

実施日	行事名	内容
5月13日(火)	デイキャンプ (災害食品体験会)	非常時を想定し、機材、設営に関してどのような配慮が必要かを考察しながら、備蓄食材を用いた炊き出し訓練を兼ねて実施した。5グループに分かれて調理する形態でのバーベキューとし、おやつではキッチンカーのトルコアイスを味わった。(参加利用者 32名)
7月31日(木)	夏のお楽しみ会	夏のイベントということでキッチンカーのかき氷を提供した。また、昼食は普段と違う弁当を食べ、午後からはプロの紙芝居を観劇した。(参加利用者 34名)
10月16日(木)	秋のお楽しみ会	ハロウィンのリース作成、スクラッチアートや飾りつけ、弁当も秋らしいメニューを準備し、おやつに焼き芋を食べ、秋を感じられる活動を楽しんだ。(参加利用者 33名)
12月16日(火)	クリスマスランチ会	数週間前から所内の飾りつけを行いクリスマスの気分を盛り上げた。当日は好きな仮装で思い思いに楽しんだ。昼食は人気カフェのボリュームたっぷりの豪華弁当を味わった。午後からは、クリスマスカード作りや、来年のカレンダー作成の為に写真撮影、食堂でカラオケ大会を行い、好きな場所で好きな事に参加した。おやつはシャンメリーで乾杯し、豪華なケーキと一緒に味わった。(参加利用者 33名)

6) 防災管理

防災対策では利用者の安全を最優先とし、避難体制と緊急時の役割分担を確認した。併せて利用者自身にも、防災訓練を通して避難方法の知識を伝えることで災害時での防災意識の高揚を図った。防災管理年間計画に基づく実施内容は、以下のとおりである。

実施事項		内容
4月	・消防用設備点検 ・非常食品・備品の点検 ・防災対策会議	・新日本コーポレーション(株)による定期点検 ・非常食品及び備品の点検、整理を実施 ・年間計画、AED・消火器の設置場所、緊急時対応個人カード、備蓄食品などの確認

5 月	・防災避難訓練 (地震想定)	・行事のデイキャンプに合わせて実施(震度6強規模の地震が発生したと想定)。今年は「災害食品体験会」とし、炊き出し訓練を兼ねた。また、「利用者の身を守る」を最優先とし、作業室毎に訓練を実施、職員の任務について確認。
7 月	・防火避難訓練 (火災想定) ・自主点検	・午前の活動時間帯の出火を想定とした防火対応避難訓練(事前周知なし)。通報(動作のみ)・伝達・初期消火・避難誘導・情報収集等の訓練を実施。 ・自主点検表に基づき、係にて実施
9 月	・情報伝達訓練	・名古屋市健康福祉局と連携し、伝達訓練を実施
	・防災対策会議	・防災に関わる事項について確認。災害時の事業所の対応についての話し合い。
10 月	・非常食品の点検・補充	・係にて点検・補充等を実施
	・消防用設備点検	・新日本コーポレーション(株)による定期点検
11 月	・防火総合訓練	・午後の活動時間帯の出火を想定とした防火対応避難訓練(事前周知あり)。消防職員立会いの下、通報(動作のみ)・伝達・初期消火・避難誘導・情報収集等の訓練を実施。消火器訓練や防災啓発のDVD鑑賞を併せて実施。
2 月	・自主点検	自主点検表に基づき、係にて実施

※当事業所は名古屋市の協定福祉避難所に指定されている。今年度は選挙日と重なり、天白区福祉避難所開設訓練は中止となった。

7) 健康管理

利用者の健康保持に留意し、月に一度、看護師による血圧測定・体重測定を実施した。また、年に2回簡易尿検査(6月・11月)を行った。嘱託医(てらしま医院)による年1回の内科検診を6月に実施した。また、希望者を対象に、契約医師(かとう歯科医院)による歯科検診を7月に実施した。

3. 支援概要

利用者の人権と個性を尊重し、各利用者の障害程度や特性に応じた支援および援助を行うことで、地域社会における社会的自立を目指した。そのため利用者のニーズを受けて支援計画(個別支援プログラム)を作成し、生活習慣支援、日中活動支援という事業所の持つ支援機能を積極的に活用した。また、強度行動障害を有する利用者を対象に、支援手順書等を作成し、個別支援の充実を図った。今年度は新たに名古屋市の強度行動障害者専門支援員派遣事業を活用し、特に対応の難しい利用者への支援策を模索した。

様々な活動に参加しながら個々の持つADL(日常生活動作)能力の維持・向上を目指し、個々の心身の状況に応じた生活リズムを確保することで、事業所屋内外での活動にや

りがいと楽しみを持つことができ、利用者一人ひとりがより落ち着いた状態で過ごせるような場面が増えた。また、生産活動面で更なる環境設定の充実を図ったことで、利用者の作業技術が向上し、多くの作業種において仕上げられる量が増えた。

1) 日課

8:30	9:00～ 9:30	9:30～ 10:30	10:45～ 12:00	12:00～ 13:00	13:00～ 14:15	14:30～ 15:30	15:30～ 16:00
職員 朝礼	朝の ラジオ 体操 会	活 動 ① (休憩)	活 動 ②	昼 食 (休憩)	活 動 ③ (休憩)	活 動 ④	清 掃 の 会

2) 各種活動支援

以下に挙げる各種活動を利用者個々が選択し、週間プログラムとして実施することで、一人ひとりの趣味趣向を確認し、持っている社会生活能力等を引き出すことをめざした。様々な活動を通じて、多角的に利用者個々を見つめることで多くの発見があった。それを踏まえて情報交換することで、各家庭との連携もより密に取ることができた。

○音楽活動

カラオケを行った。音楽に合わせて歌を歌ったり、手拍子でリズムをとったりして、楽しんだ。曲は様々なジャンルや年代から選び、利用者個々が好きな音楽を見つけ、それぞれの形で楽しさを表現しながら時間を過ごすことができた。

○創作活動

自由画、折り紙、塗り絵、パズル、ブロック、学習プリントなどから好きなものを選び、それぞれ好きなペースで取り組んだ。ゆったりとした雰囲気の中で活動をおこなうことができていた。

また、今年度も外部講師を招いての「パンフラワー」に取り組んだ。概ね週に1回のペースで活動し、今年度は8つの作品を作成した。

○クッキング活動

手袋やマスクを着用し、衛生面にも配慮したうえで活動を展開した。調理工程をいくつかのパートに分けて、調理が不慣れな利用者にも参加してもらいやすい環境設定を工夫した。活動を続けてきたことで、利用者同士でも役割分担し、互いに調理を促す場面が自然と見られるようになった。また調理後は皆で食事を楽しみ、味の感想や次は何を作りたいかなど話し合う時間を設けた。

○ドライブ活動

公用車を使用し、1時間程度の時間をかけて、いろいろな場所の風景を見に出かけた。行先は利用者の希望を取り入れ、毎回コースを変えながら取り組んだ。道中では会話や音楽、景色を楽しみながら、のんびりとすごせている様子が伺えた。

○軽スポーツ活動

ダンス・ボール遊び・ストレッチなど、楽しく簡単に体を動かすことを中心に取り組んだ。また、今年度から新たに外部講師を1～2か月に1回程度招き、ヨガに

取り組んだ。運動を楽しめるように各利用者のペースや能力に合わせて、取り組む内容を工夫した。

○生産活動

従来の生産性重視の作業活動から機能訓練等に視点を移した作業活動にすることを目的としている。その上で個々の個別支援計画に反映させ、利用者自身が積極的に取り組めるよう支援した。

具体的には、作業活動の分析と作業工程の見直しを常に行いながら、個々の作業適性に応じた作業種を提供し、より作業しやすい環境設定に努め、作業能力の維持・向上をめざした。達成感を感じてもらうことで、働くことへの意欲も高めることができた。

※ 平均工賃・・・2,481円／月（前年度 2,936円／月）

・ガス部品組付け作業

（株）エフワイ成型より受注してきた、シャフトの金具付け、バネ付け点検、箱詰め作業を中心に取り組んだ。受注量は週に1,500～2,000個程度であった。週により作業量の増減はあったが、年間通して安定した作業量を確保できた。

・ゴミ袋セット（粗品）作り作業

おおむね例年通り、区役所などの公共団体や各種団体（学区の連絡協議会など）から注文をいただき、作業に取り組むことができた。利用者にはゴミ袋折り、束ねる工程、「クリスタルパック」への袋入れ工程等に参加していただいた。また、利用者の描いた絵をラベルに使用した玄関の無人販売用セットの作成・販売を継続し、自主製品として定番化することができた。

・自動車部品作業

ヤマテックよりプラスチックや安全ピンなどの作業を受注した。受注量が減少傾向ではあるが、毎日の納品と受注がある中で、利用者・支援員で取り組むことで多くの人が関わることもできた。

作業種や作業量を先方と調整を行いながら、利用者への定着を図った。取引先との連絡・調整は密に行うようにした。

○その他

毎月の工賃支給日の午後に購入したお菓子・ジュース等を全員で飲食しながら、日々の労をねぎらうティータイムを行った。会の準備・片付けは、利用者也交えながら行った。また、ティータイムのイベントとして、1月にぜんざい会を開き、3月には1年頑張った労いのイベントとしておつかれさま会を開催した。日々の活動への参加意欲の更なる向上にもつなげていくことができた。

4. その他の諸活動について

1) 事業所体験・相談援助実習・施設見学の受け入れ

① 事業所体験実習

在宅または就学中の障害者を対象に、生活介護事業所での体験を通じて学校卒業後の日中の過ごし方について、体験する機会を提供した。実習期間を1日～5日に設定し、正確な実習報告書を作成することで、今後の日中生活支援の参考資料とした。

南特別支援学校	1名	男性
---------	----	----

② 相談援助実習

大学や専門学校等で「社会福祉士」の資格取得のために、ソーシャルワークの価値・知識・技術について、学生自身が、講義やスクーリング学習を統合化し、実践力を身につける貴重な機会として、現場実習の場を提供した。

日本福祉大学中央福祉専門学校	2名	ソーシャルワーク実習 (社会福祉士実習)
日本福祉大学	2名	

③ 施設見学

障害者本人をはじめ、当事業所を見学希望される方を積極的に受け入れた。限られた時間ながらも、地域の様々な立場の人たちが障害者福祉の分野に関心を持ち、地域社会における施設の役割を理解いただく機会を提供できた。

(当事者本人)

天白特別支援学校	1名	高等部2年
南特別支援学校	1名	高等部1年

(保護者)

南特別支援学校	1名	
アイステップ名古屋	16名	

(その他)

あけぼの学園	2名	
--------	----	--

2) ボランティアの受け入れ

利用者の幅広い対人関係の育成と、余暇・生産活動の充実をねらいとしたボランティアの受け入れを積極的に行っている。今年度は、中部善意銀行による「夏季高校生ボランティア活動」の参加者はいなかった。

3) 広報活動

法人ホームページ・X（旧ツイッター）や事業所紹介パンフレットを通じて、地域社会に広く当事業所の理念を伝えていくことをめざした。また、ふれ愛ネット天白や天白区障害者自立支援連絡協議会等、地域住民や福祉関連団体との交流の場にも積極的に参加し、同地域におけるネットワーク作りに取り組んだ。

また、季刊報「はあと通信」を年4回発刊し、利用者をはじめとして、当事業所と協力関係にある学校、福祉事業所、作業関連の事業所などに配布し、広報活動を推し進めた。当事業所における生活介護事業所としての取り組み、行事・活動内容を中心に構成し、わかりやすい紙面作りに努めた。

4) 苦情解決

施設の福祉サービスに対する苦情の受付はなかった。

5. 利用者状況

1) 入退所（定員 40 名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
利用者数 (月末)	3 7	3 7	3 7	3 7	3 7	3 7	3 7	3 7	3 7	3 6	3 6	3 6
利用実績	30.0	31.0	30.9	30.4	28.3	29.3	30.3	30.7	30.2	30.6	28.4	30.5

※利用実績の年間平均出席人数は、30.1 名である。利用実績はサービス提供時間を考慮している。開所日数：242 日 利用率：81.8%である。利用実績、年間平均出席人数及び利用率は小数点第 2 位以下切り上げ。

2) 年齢別

(令和 8 年 3 月 31 日 現在)

年齢 性別	～20	21～ 25	26～ 30	31～ 35	36～ 40	41～ 45	46～ 50	51～	計	平均年齢
男性	1	7	2	0	3	5	3	5	2 6	3 7. 5
女性	0	0	5	0	1	1	0	3	1 0	4 5. 4
計	1	7	7	0	4	6	3	8	3 6	4 1. 5

※最高年齢は 85 歳（女性）、最低年齢は 18 歳（男性）である。

3) 障害別

(令和 8 年 3 月 31 日 現在)

障害 性別	知的障害	ダウン症	自閉症	てんかん	その他
男性	2 6	2	1 5	8	4
女性	1 0	0	2	2	2
計	3 6	2	1 7	1 0	6

※3 6 名中、重複障害者は 2 6 名。

4) 通所期間別

(令和 8 年 3 月 31 日 現在)

期間 性別	1 年未満	1～3 年 未満	3～5 年 未満	5～7 年 未満	7～10 年 未満	10 年以上	計
男性	1	2	1	3	3	1 6	2 6
女性	0	0	0	0	4	6	1 0
計	1	2	1	3	7	2 2	3 6

※入所平均期間は 14.9 年、最長期間は 33 年である。

5) 障害支援区分別

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

区分 性別	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	区分なし	計
男性	0	2	5	9	1 0	0	2 6
女性	0	2	3	2	3	0	1 0
計	0	4	8	1 1	1 3	0	3 6